



平成30年8月10日

各 位

会社名 イチカワ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 牛尾 雅 孝
 (コード番号 3513 東証第1部)
 問合せ先 執行役員総務部長 森 下 一 彦
 (TEL. 03-3816-1111)

業績連動型株式報酬制度の導入に伴う第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ

当社は、平成30年5月15日付で公表した「株式給付信託 (BBT=Board Benefit Trust)」(以下「本制度」といいます。)の導入に伴い、本日開催の取締役会において、下記のとおり、第三者割当による自己株式の処分(以下「本自己株式処分」といいます。)を行うことについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 処分の概要

(1) 処 分 期 日	平成30年8月31日(金)
(2) 処分する株式の種類及び数	普通株式 448,000 株
(3) 処 分 価 額	1株につき金 351 円
(4) 処 分 総 額	157,248,000 円
(5) 処 分 予 定 先	資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)
(6) そ の 他	本自己株式の処分については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とします。

2. 処分の目的及び理由

当社は、平成30年5月15日付で本制度の導入を公表し、その後、平成30年6月28日開催の第94回定時株主総会において、役員報酬として決議されました。(本制度の概要につきましては、平成30年5月15日付「業績連動型株式報酬制度の導入に関するお知らせ」をご参照下さい。)

本自己株式処分は、本制度の運営に当たって当社株式の保有及び処分を行うため、資産管理サービス信託銀行株式会社(本制度に関してみずほ信託銀行株式会社と締結する信託契約に基づいて設定される信託(以下「本信託」といいます。))の受託者たるみずほ信託銀行株式会社から再信託を受ける再信託受託者に設定される信託E口に対し、第三者割当により自己株式を処分するものであります。

処分数量については、「役員株式給付規程」に基づき信託期間中に当社の取締役(社外取締役を除きます。以下、断りがない限り、同じとします。)及び執行役員(以下、取締役とあわせて「取締役等」といいます。)に給付すると見込まれる株式数に相当するもの(平成31年3月末日で終了する事業年度から平成34年3月末日で終了する事業年度までの4事業年度分)であり、平成30年3月31日現在の発行済株式総数24,835,758株に対し1.80%(小数点第3位を四捨五入、平成30年3月31日現在の総議決権個数23,627個に対する割合1.90%)となります。

※信託契約の概要

信託の種類 金銭信託以外の金銭の信託(他益信託)
 信託の目的 役員株式給付規程に基づき信託財産である当社株式を受益者に給付すること
 委 託 者 当社
 受 託 者 みずほ信託銀行株式会社
 (再信託受託者: 資産管理サービス信託銀行株式会社)
 受 益 者 取締役等を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者
 信託管理人 当社と利害関係のない第三者を選定

信託契約日 平成 30 年 8 月 31 日 (予定)
信託設定日 平成 30 年 8 月 31 日 (予定)
信託の期間 平成 30 年 8 月 31 日 (予定) から信託が終了するまで
(特定の終了期日は定めず、本制度が継続する限り信託は継続します。)

3. 処分価額の算定根拠及びその具体的内容

処分価額につきましては、本自己株式処分の取締役会決議日の直前営業日までの 1 か月間 (平成 30 年 7 月 10 日から平成 30 年 8 月 9 日まで) の東京証券取引所における当社普通株式の終値平均である 351 円 (円未満切捨) といたしました。

取締役会決議日の直前営業日までの 1 か月間の終値平均を基準としたのは、特定の一時点を基準にするより、一定期間の平均株価という平準化された値を採用する方が、一時的な株価変動の影響など特殊要因を排除でき、算定根拠として客観性が高く合理的であると判断したためです。また、算定期間を直近 1 か月としたのは、直近 3 か月、直近 6 か月と比較して、直近のマーケットプライスに最も近い一定期間を採用することが合理的であると判断したためです。

なお処分価額 351 円については、取締役会決議日の直前営業日の終値 354 円 (円未満切捨) に対して 99.15% (ディスカウント率 0.85%) を乗じた額であり、取締役会決議日の直前営業日から遡る直近 3 か月間の終値平均 354 円 (円未満切捨) に対して 99.15% (ディスカウント率 0.85%) を乗じた額であり、あるいは同直近 6 か月間の終値平均 360 円 (円未満切捨) に対して 97.50% (ディスカウント率 2.50%) を乗じた額となっております。上記を勘案した結果、本自己株式処分に係る処分価額は、特に有利なものとはいえず、合理的なものと判断しております。

なお、上記処分価額につきましては、取締役会に出席した監査役 3 名 (うち 2 名は社外監査役) が、特に有利な処分価額には該当しない旨の意見を表明しております。

4. 企業行動規範上の手続きに関する事項

本自己株式処分は、① 希薄化率が 25% 未満であること、② 支配株主の異動を伴うものではないことから、株式会社東京証券取引所の定める有価証券上場規程第 432 条に定める独立第三者からの意見入手及び株主の意思確認手続は要しません。

以 上